旭川医科大学　二輪草センター
（復職・子育て・介護支援センター）

二　輪　草　だ　よ　り

平成30年10月号
発行：二輪草センター

センターの活動予定
◆11月16日（金）　医学生・研修医・女性医師の集い開催
◆11月27日（火）　看護学生と看護師の集い開催
◆11月下旬　二輪草だより11月号発行

医学生・研修医・女性医師の集い開催のお知らせ

『研修医生活ってどんなもの？』

日時：平成30年11月16日（金）18：30～20：00
場所：臨床講義棟　臨床第3講義室
対象：医学生・研修医・医師

講演

育児中内科医のワークライフバランスの1例～時短勤務から資格取得まで
旭川厚生病院　血液・腫瘍内科　　塚田　和佳先生

専攻科を悩みながらの初期研修　今までを振り返って
市立旭川病院　消化器内科　　吉田　萌先生

①女性医師の役割について考える②周囲をまきこんだ子育てライフ
旭川医療センター　呼吸器内科　　森　千恵先生

とある神経内科医の一日　～続・ゆかいな研修医～
旭川赤十字病院　脳神経内科　　阿部　恵先生

Work-life balance - case report
旭川医科大学　皮膚科　　大坪　紗和先生

◎参加無料。軽食を用意しておりますので、お気軽にご参加下さい。
◎参加ご希望の方は、二輪草センターまでご連絡下さい。
託児ご希望の方は、申込みの際にお申し出ください。（11月9日締切）

病児一時預かり室、バックアップナース、病児・病後児保育室、カウンセリング相談
【9月20日～10月19日までの利用状況】

病児一時預かり室	依頼回数	0 回	利用回数	0 回
バックアップナース	依頼回数	20 回	稼働回数	18 回
病児・病後児保育室	依頼回数	19 回	利用回数	15 回
カウンセリング相談			利用回数	3 回

＊病児一時預り室、病児・病後児保育室は全職員・学生がご利用になれます

【お問い合わせ先】旭川医科大学　二輪草センター（復職・子育て・介護支援センター）
〒078-8510　北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1
TEL　0166-69-3240（内線3240）サンニンヨレ　　FAX　0166-69-3249
開設時間8時30分～17時15分　E-mail: nirinsou@asahikawa-med.ac.jp
ホームページ　http://www.asahikawa-med.ac.jp/hospital/nirinsou/

看護学生と看護師の集い開催のお知らせ

日時：平成30年11月27日（火）12：00～12：45
場所：輸血部カンファレンスルーム
対象：看護学生・看護職員・看護教員
　　コ・メディカルスタッフ

『私のキャリアのターニングポイント』

講演　＊6階東ナースステーション　　國本 紅美子看護師
　　＊8階西ナースステーション　　鉄川 洋平看護師
　　＊4階西ナースステーション　　相原 広美 副看護師長

中堅看護師の体験談を聞き、これからの自己のキャリアについて考えよう！
◎昼食をご持参の上、ご自由にご参加下さい

訪問看護ステーション看護師のための生涯学習支援研修終了報告

看護職キャリア支援職場適応支援担当　　菊地 美登里

この研修は、地域貢献の一環として平成25年から開始し今年度で6年目となり、訪問看護に必要な知識・技術の再学習の機会となるよう実施しています。ここ数年の地域包括ケアシステム構築の動きから、ますます在宅看護の重要性が高まってきています。

今年度は8月24日、27日の2日間の日程で開催し、15施設から41人の参加申し込みがありました。訪問看護経験年数をみると1年以内が35%を占めており、例年に比べ経験の浅い方の申し込みが多く感じました。当日は欠席等があり36人の参加でした。

1 日目は、「在宅でのフィジカルアセスメント～こんな時何が考えられるか～」とのテーマで、集中ケア認定看護師・特定行為実施者である9階東病棟上北真理副看護師長の講義がありました。病歴の情報収集の重要性や症状の組み合わせから考えた重篤度・緊急度の判断、見逃してはいけない症状などの説明があり、事例をもとにしたアセスメントの方法では、もっと多くの事例から学びたかったとの感想がありました。一人で訪問し判断する責任と難しさの中で訪問看護を実践されていることがよくわかりました。

2日目は、「在宅での呼吸リハビリテーション～スクイージング～」について、リハビリテーション部理学療法士塚田鉄平さんの講義と演習がありました。

まず、呼吸リハビリテーションの考え方について、利用者が生活で何に困っているか原因は何か、それに対してのアプローチをどうするかといったプロセスが大切であると話されました。呼吸リハビリテーション＝スクイージングではなく、肺の解剖を理解し効果的な体位ドレナージを行ったうえでスクイージングを実施すること、患者の呼吸に同調させ呼吸を妨げないことが重要であることが強調されました。演習では研修者同士や講師に実施してもらいながら、方法や感覚を学びました。研修時間終了後も個別に指導を希望する方が多く、在宅で必要とされている知識・技術であることがわかりました。

研修は日常業務が終了してからの時間帯で遠方から参加された方もいらっしゃいました。研修者の受講の姿勢からも、訪問看護ステーションの皆さんの学習意欲と熱心さには、頭の下がる思いでした。「今年も来ました」「いつも案内ありがとうございます」といった声も聞かれ、今後も期待に応えられる研修を企画していきたいと考えています。